

各位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神農業振興センター

「令和8年産 麦作情報（第1号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象の概要（平年と比較して）

平均気温…11月～12月5半旬は、全体的に高く推移した(1.2℃高温)。

しかし、12月6半旬～1月1半旬まではやや低く推移した(0.9℃低温)。

降水量……11月2半旬と12月5半旬にまとまった降雨があった。数日おきに少量の降雨があったが、11月1日～1月20日の積算降水量は平年比42%と少なかった。

日照時間…全体的に日照時間は同等又は長く推移したが、11月3半旬は平年比79%と短く推移した。

2. 麦類の生育状況

（1）農試情報田の調査結果（1月20日付け 麦づくり情報第1号）

品種	播種期 (月/日)	年次	出芽期 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	概況 (平年値または平均値と比較して)
シロガネコムギ	11/20	本年	12/2	13.7	575	4.7	[気象] 11月20日～1月19日まで ◆平均気温…1.0℃高い 12月4～5半旬は3.7℃高い ◆日照時間…長い(平年比131%) ◆降水量…少ない(平年比48%) [生育] ◆出芽期 「シロガネコムギ」は11/20播種で1日遅く、12/10播種で3日早い。 大麦は、12/1播種で平年並み～1日遅く、12/10播種で6日早い。 ◆草丈 「シロガネコムギ」は低く、「サチホゴールデン」、「はるか二条」は高い。 ◆茎数 全品種、全作期で多い。 ◆葉齢 11/20播種「シロガネコムギ」はやや少ない、12/10播種「シロガネコムギ」、「サチホゴールデン」、「はるか二条」は多い。
		平年	12/1	14.7	469	4.8	
		平年比(差)	+1	93	123	-0.1	
	12/10	本年	12/23	8.8	263	3.0	
		平年	12/26	9.6	173	2.5	
		平年比(差)	-3	92	152	+0.5	
サチホゴールデン	12/1	本年	12/20	10.6	423	3.7	
		5ヶ年平均	12/20	9.4	317	3.0	
		平年比(差)	±0	113	133	+0.7	
	12/10	本年	12/24	9.3	315	2.8	
		平年	12/30	8.7	207	2.2	
		平年比(差)	-6	107	152	+0.6	
はるか二条	12/1	本年	12/20	10.3	419	3.4	
		5ヶ年平均	12/19	8.5	333	2.8	
		平年比(差)	+1	121	126	+0.6	
	12/10	本年	12/24	9.0	317	2.6	
		平年	12/30	8.1	225	1.9	
		平年比(差)	-6	111	141	+0.7	

(2) 三神農業振興センター情報田 調査結果（調査日：1月19日）

調査日	場所	品種名		播種日	苗立数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈 葉齢 (L)	備考
1月19日	上峰	シロガネ コムギ	本年	11/24	205	20.7	463	4.4	・ 平年の播種日は11/15～12/8 ・ 草丈は高く、茎数は多い。 ・ 葉齢から見た生育はやや進んでいる。
			平年	11/25	164	15.4	391	4.0	
			平年比(差)	-1	125	134	119	+0.4	
1月19日	みやき	はる風 ふわり	本年	11/17	143	16.3	474	5.2	・ 平年の播種日は11/15～11/25 ・ 草丈は高く、茎数は多い。 ・ 葉齢から見た生育は進んでいる。
			5ヶ年平均	11/20	119	12.1	438	4.5	
			平均比(差)	-3	120	134	108	+0.7	
1月19日	鳥栖	はるか 二条	本年	11/21	173	12.2	393	4.7	・ 平年の播種日は11/20～11/27 ・ 草丈は高く、茎数は多い。 ・ 葉齢から見た生育は進んでいる。
			6ヶ年平均	11/22	123	10.9	287	3.6	
			平均比(差)	-1	141	112	137	+1.1	

注1) 「シロガネコムギ」の平年値は、H27～H29及びR4～7の7ヶ年のうち、収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年の平均。

注2) 「はる風ふわり」平年値は、調査を開始したR3年産から5ヶ年の平均値。

注3) 「はるか二条」平年値は、調査を開始したR2年産から6ヶ年の平均値。

(3) 管内の生育概況

- ・ 播種作業は順調に行われた傾向であった。
- ・ 小麦の播種作業は11月中下旬を中心に行われ、出芽は良好で、現在4～5葉期ごろとなり、分けつの抽出が旺盛になってきている。
- ・ 大麦の播種作業は11月下旬～12月上旬を中心に行われ、出芽は良好で、現在3～4葉期となり、分けつの抽出が旺盛になってきている。
- ・ 平年よりも気温が高かった影響で生育は平年よりやや進んでいる。

3. 今後の管理

(1) 追肥（本葉3～4葉期頃）

- ・ 生育の状況をみながら、葉齢3～4葉期頃に施用する。
- ・ 晩播した圃場で追肥施用分も併せて元肥に重点施肥した圃場では追肥を施用しない。
- ・ 追肥の効果を高めるためには追肥後の土入れ（5葉期以降）が有効である。

(2) 麦踏み（3葉期以降）

- ・ 必ず圃場状態を確認し、土壌が乾燥した状態で行う。
土壌水分が高い時に麦踏みを行うと土が締まり、湿害を助長する。
- ・ 3葉期以降に実施し、麦生育の回復を待って、条件が良いときに3～4回実施する。

【麦踏みの効果】

①耐寒性向上 ②根量増加 ③短稈多分けつ型への誘導 ④早立ち防止で凍霜害回避

(3) 土入れ（5葉期以降）

- ・ 5葉期以降に、雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に実施する。
- ・ 土壌水分が高いときに行うと、土塊が大きく麦が埋まり土から出てこなくなるため、必

ず土壌が乾燥した状態で行う。

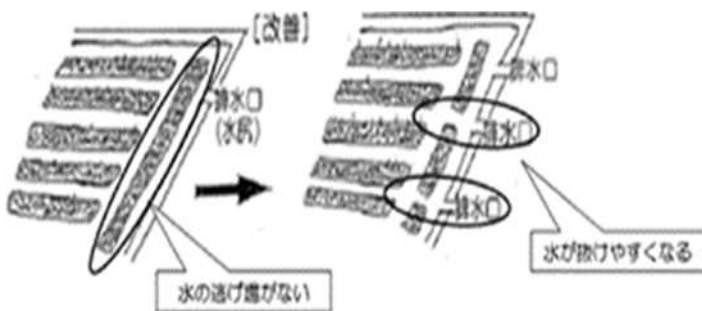
- ・土入れの量は生育初期は少なめに、生育が進むにつれて量を増していくこと。

【土入れの効果】

①防寒 ②保肥力増大 ③倒伏防止 ④無効分げつ制御 ⑤雑草防除 ⑥排水促進

(4) 排水対策

- ・排水対策は、分げつの確保や登熟向上・収量向上・品質向上に重要である。
- ・土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。
→特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。
- ・近年は温暖化の影響で大雨が降ることが多い。水が溜まったら排水溝に逃がす作業を必ず実施する。



(5) 鳥獣害対策

①カモによる食害

- ・川沿い(筑後川、クリーク等)の麦においてカモによる食害が毎年確認されており、本年も被害圃場が散見される。
- ・被害が小さい場合、補償作用により減収も限定的だが、時期が遅く被害が大きい場合は、減収につながる恐れがある。

(症状)

- ・麦の地際部まで草刈り機で払ったように葉が切れている。
- ・周辺に鳥の糞が落ちている。



▲【カモによる食害痕】



カモによる食害圃場

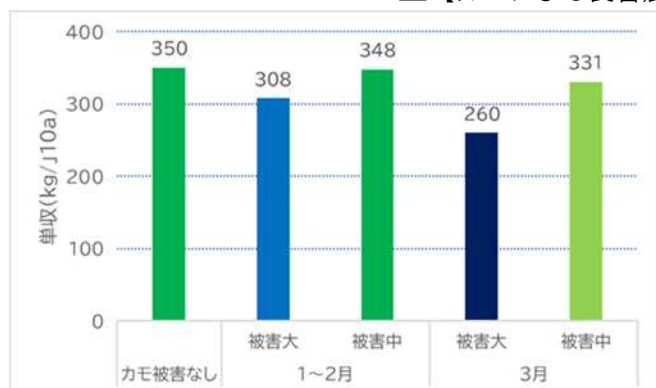


図 カモの加害時期別の被害程度と収量の関係

(対策のポイント)

- ・カモにとって居心地が悪い環境をつくる
- ・カモの生態（行動）を変える

→ 滞在時間を短くする、新たな飛来カモに麦を食べさせない等)

(具体的な対策事例)

吹き流しの設置

- ・2mの支柱に、長さ 2~3mのマルチシート等を 10a 当たり 5 本以上設置する。
- ・数が多いほど効果は高まる。
- ・吹いたときに音が鳴らないと効果が落ちる。
- ・水路から侵入することが多いため、水路寄りに設置すると効果的。
- ・地域ぐるみの設置により効果が上がる。



②カラス対策

・カラスによる被害は、有害鳥類の中で最も多く、加害対象や内容も非常に多岐にわたる。

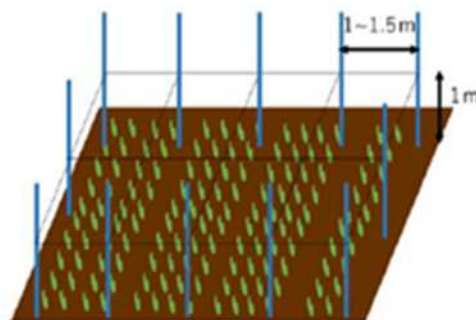
(症状)

- ・写真は播種後の種をくちばしで探って食べた後の被害圃場である。
- ・雑食性で、水稻や麦の種子もよく食べる。



(対策)

- ・黒のワイヤ線としなりやすい支柱を用いて、カラスの翼を広げた時の長さ (1~1.5m) の間隔で約 1 mの高さに設置することにより、飛来するカラスは嫌がる。
- ・さらにテグスなどを張り巡らせると翼に当たるのを嫌がる為、効果が高くなる。ただし、歩いてくるカラス、ハトやカモには効果がない。



(次年度対策)

- ・忌避剤として、キヒゲン R-2 フロアブルを種子粉衣する。ただし、絶対的な忌避効果ではないため、周辺に他の餌が少なければ加害を受ける。

(6) 雑草対策

- ・一年生広葉雑草を中心に雑草の発生が目立つ圃場が一部でみられる。
- ・例年雑草の発生が目立つ圃場では、除草剤 1 回の散布では十分な除草効果が期待できない。麦の生育量確保と雑草種子の混入防止のため、下記の例を参考に体系的な防除を実施する。

【雑草対策の例】

- ①播種直後除草剤散布 → ②生育期除草剤散布 → ③中耕 (複数回) → ④手取り除草
※難防除雑草は除草剤 1 回での除草は困難。地道な防除で根絶を目指しましょう！

(注意)

麦踏み：麦踏前後の除草剤散布は薬害を助長するため避ける。

土入れ：土入れを除草剤散布後に行うと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根部吸収が妨げられるので控える(特にステージの進んだ雑草の場合、十分間隔をあける。)

麦圃場でよくみられる雑草(広葉)



ミチヤナギ



トゲミノキツネノボタン



アメリカフウロ



ノミノフスマ



イヌタデ



ヤエムグラ



カラスノエンドウ

生育期除草剤 使用例

農薬名	有効な雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総 使用回 数
		10a 当たり			
バサグラン 液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	100～ 200ml	70～ 100L	雑草 3～6 葉期 小麦：収穫 45 日前まで 大麦：収穫 90 日前まで	1 回
ハーモニー 75DF 水和剤	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ カズノコグサ	5～ 10g	100L	播種後～節間伸長前 (スズメノテッポウ：5 葉期まで) (カズノコグサ：1～3 葉期まで) 小麦のみ 播種後～穂ばらみ期まで 収穫 45 日前まで	1 回
	ハーモニー75DF 水和剤使用上の注意点 ・播種後にハーモニー細粒剤 F を散布した圃場は使用不可 ・ <u>薬害が生じ易い</u> ので周辺作物に注意 ・使用器具の洗浄をよくし、他作物との併用はしない 一年生広葉雑草の例 ミチヤナギ、タデ類、トゲミノキツネノボタン、アメリカフウロ、 ノミノフスマ (ヤエムグラ、カラスノエンドウには効果が弱い。)				

令和8年産 麦類生育期間気象グラフ

(アメダス観測地点：佐賀, データ更新日：1月23日)

三神農業振興センター

